

「英訳マンガから見る英語表現の一考察：『異世界失格』を事例にして」(第70号、令和8年5月)、1-42頁

「プロローグ」「1 『異世界失格』」「2 センセーと太宰治」「3 『異世界失格』とNo Longer Allowed in Another World」「4 センセーが異世界へ：聖職者との対面」「5 センセー、いよいよ異世界へ」「エピローグ」の順で、英語表現について注目した。「エピローグ」では、「先生の考え方の根底にあるのは彼の言葉で知ることができる。There are few acts as presumptuous as unilaterally appraising another's happiness. 人が不幸せかどうか勝手に決めるなど、おこがましいにも程がある。「幸福」の在り方を他人が一方向的に判断することへの疑念が投げかけられている。先生のキャラクターに支えられている『異世界失格』は、「異世界もの」特有の勇者召喚ストーリーとは一味も二味も異なる。英語表現も人生を吐露するような内容のものが多く、これも注目に値しよう。」と結んだ。(A5)